

平成20年度

# 病虫害発生予察特殊報(第2号)

平成21年3月26日  
神奈川県農業技術センター所長

病虫害名：カタベニデオキスイ  
*Urophorus humeralis* (Fabricius)

作物名：トウモロコシ（未成熟）

## 1 発生経過

- 平成20年8月に農業技術センター普及指導部より、藤沢市で栽培されているスイートコーンに種不明の甲虫類が寄生し、内部の子実を成虫及び幼虫が食害している雌穂が多数見られ、病虫害防除部に被害果が持ち込まれた。
- 現地で被害が確認されたのは1ほ場のみであったが、寄生株率は60%程度であった。
- 持ち込まれた虫を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼をしたところ、カタベニデオキスイと同定された。
- 通常は成熟した種子に寄生し、未熟な種子にはあまり寄生しないと考えられていたが、未成熟トウモロコシを餌として室内飼育を行ったところ、次世代まで継代することができ、ほ場と同様の被害が認められた。

## 2 形態および生態

- 形態  
成虫は体長5~6mm、前胸背板の前角と上翅肩部はつねに黄赤色をしている。前胸背板は新鮮な個体では明瞭に毛を装い、点刻はかなり大きい。老齢幼虫の体長は7~8mmで乳白色、蛹の体長は4~5mmである。
- 生態  
ケシキスイ科の一種で、寒冷地を除く世界各地に生息し、日本では北海道を除く地域に分布している。果物やトウモロコシ等の害虫、貯穀害虫として知られている。神奈川県では畑で枯れて倒れたトウモロコシからよく採集される種である。  
25℃の条件下で飼料用乾燥トウモロコシ子実を用いて飼育したところ、飼料が乾燥した条件では放飼した成虫は全て死亡したが、給水させた飼料を用いた場合は次世代まで飼育が可能であった。この時の、卵から蛹化までの経過日数は25~26日、蛹期間は6~7日であった。

## 3 被害及び寄主植物

- 被害  
スイートコーンの被害としてアワノメイガやオオタバコガ等の食害痕に二次的に寄生することが報告されている。そのため、室内飼育で未成熟トウモロコシの苞葉を剥いたものと剥がないものでそれぞれ飼育し、比較したところ、剥いたものは、剥いていないものに比べて約5倍

もの次世代成虫が羽化した。今回の被害果を観察しても、アワノメイガかオオタバコガによる食害痕に本種が寄生していた。

(2) 寄主植物

果物やトウモロコシなど。

#### 4 防除対策

(1) 畑で枯れて倒れたトウモロコシからよく採集されることから、ほ場周辺に収穫残渣等を放置せず、衛生管理に努める。

(2) 本種に対する登録薬剤はない。アワノメイガ、オオタバコガ等に対する防除対策を行い、本種の二次的寄生を防ぐ。



<トウモロコシへの加害（幼虫）>



<トウモロコシへの加害（成虫）>



<成虫>



<蛹>



<幼虫>

神奈川県農業技術センター  
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレホンサービス0463-58-6612

<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/nosoken/boujo.asp>